

2024 年度事業報告書

(2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

フードバンク関西は、2025 年 3 月 31 日をもって第 22 期会計年度を終了いたしました。ご支援賜りました皆さまに心より感謝いたしまして、以下、事業報告をいたします。

I. 事業活動の概況

経済的に困窮し食品の入手が困難な方々へ食品を届ける困窮者支援に重点を置いて活動をいたしました。

「子育て世帯応援食品パック」事業を昨年までの年 2 回（夏休み、年末）に加えて、3 月にも進級・進学応援として実施し、計 3 回実施いたしました。それぞれの回で発送予定数を大幅に超える申し込みがあり、生活困窮世帯が物価高騰によってますます厳しい状況に置かれている様子が垣間見られました。

地域で困窮世帯に食品を無償配布するパントリー団体でも食品を求めて来る人が増加しており、困窮世帯の食支援へのニーズが高まっています。

一方、「令和の米騒動」の時期には当法人においても困窮世帯への食支援に必要な米の入手が困難になる時期もありました。生活困窮者支援にあたって寄贈食品では賄えない米やたんぱく源、おかずになるものの購入が増加しました。

全体的には食品取扱量は減少傾向にありますが、年度末に政府備蓄米の交付が決まり、初回分を納入いただけたおかげで昨年度とほぼ同様の取扱量を達成することができました。

今後も生活困窮者支援に必要な食品の確保に向けて、各方面にご協力いただけるよう働きかけていきたいと思っております。

II. 本年度の成果

(1) フードバンク活動

① 食品の受取

- 昨年より継続して企業から米の定期的な提供を受けることができました。
- 当法人の活動趣旨を理解してくださる企業からの継続的支援が得られた。
- 企業から冷凍のたんぱく源を複数回にわたり大量に提供いただくことができました。
- 食品関連以外の企業や団体・学校などでのフードドライブへの取り組みが広がり、集まった食品を当法人へ届けてくださるところが多くなった。

② 食品の提供

- 福祉施設、子ども食堂、パントリーへ、米が一時的に不足することがあったものの、定期的に種々の食品を提供して活用していただくことができました。
- それぞれの団体の活動に応じた食品を適切に提供できた。
- 臨時に在庫食材について情報を提供し、寄贈された食品を必要とするところへ短期間で効率よく提供

し、食品の有効活用ができた。

- 行政や社会福祉協議会の担当部署を通じて、生活困窮に陥った市民に量、質ともに十分な緊急食品を届け、命を繋ぎ生活再建へのモチベーションを高めることができた。
- 「子育て世帯応援食品パック」事業、「子ども元気ネットワーク」事業で困窮子育て世帯に家計の軽減と精神的なゆとりをもたらすことに貢献できた。

(2) 事故への対応強化

- N P O賠償保険に加入し、事故や不測の事態への対応を強化した。
- 冷凍庫、冷蔵庫の温度管理について業者のクラウドシステムを導入することで、異常の検知を確実にし、食品衛生管理を向上させた。

(3) 法人運営

- 入出庫、会員管理、経費精算のシステムによる管理が定着した。
- 事務所入り口に伝言版を設置することにより曜日替わりで活動するボランティア間の連絡連携に役立てた。
- ボランティアミーティング開催や他団体主催のイベントへの参加は、ボランティアが自分たちの活動の意義を認識する機会やボランティア同士の交流を図る機会となった。

(4) 関係各所との連携

- 神戸新聞社会賞を受賞し、各方面から評価いただくことができた。
- ACCJ 関西から法人車輛の寄贈を受け、経年劣化していた法人車輛の入れ替えができた。
- 近畿農政局、兵庫県農林水産部、兵庫県地域福祉課との連携を強化することができた。
- パントリー団体との情報交換会開催や子ども元気ネットワーク連携団体との情報交換会を開催し、支援の状況や課題の共有と関係強化を図ることができた。
- 兵庫県内や近隣のフードバンク団体に定期的または不定期に食品を提供し、それらの団体の地域でのフードバンク活動促進に貢献できた。
- 日本フードバンク連盟の定期的なオンラインランチミーティングに参加し、フードバンクに関する政策の動きについて知ることができ、また加入団体と情報交換をすることができた。

III. 2024 年度の各事業の報告

当法人の事業について、(1) 食品の受取、(2) 食品の活用、(3) 関係各機関との連携、(4) 広報活動を具体的に報告いたします。

(1) 食品の受取

① 取扱食品量

- 食品取扱総量は、247.5 トンと前年並みとなったが、政府備蓄米交付を除くと受取量は減少傾向にある。

- コストコからのパン・野菜の提供量が前年度より大幅な減少となった。
- 夏から秋にかけて米の入手が困難になり、施設、団体へ十分な量の提供が困難になった。
「子育て世帯応援食品パック」用には購入することとなった。

② 提供元

2024 年度取扱食品の提供者数・引取量

提供元	企業・団体数	引取重量 (トン)	全体に対する%
食品関連企業・法人	101	187.5	75.7%
防災備蓄食品旧品	43	7.4	3%
フードドライブ	70	21	8.5%
他のフードバンク	2	3.9	1.6%
個人	のべ 1045	15.8	6.4%
購入食品他	イエローレシート他	3.4	1.4%
政府備蓄米	初回分	8.5	3.4%
合計		247.5	100.0%

- 企業からの食品提供は、144 社（うち防災備蓄品提供企業は 43 社）で、そのうち今年度に合意書を交わした企業は 15 社（そのうち防災備蓄品提供企業は 5 社）となった。

<企業渉外チームの取り組み>

- 企業でのサプライチェーン構築による各部門の連携強化が進み余剰食品・正規食品の提供量は減少傾向になっているが、新規支援企業の協力を得て取扱量の微減となった。
 - 配送の課題が浮かび、寄贈食品の引き取りを求められることへの対応に追われた。
 - 行政等のご支援により政府備蓄米の交付を年度末から受けることができた。
- フードドライブでは提供団体数は増えたが、受け取った総重量としては前年度を下回った。量販店店頭でのフードドライブは定着してきたが、店によって取り組み姿勢に温度差を感じる。社会貢献活動としてフードドライブを開催する企業や団体・学校が増えており、寄贈時期や望まれる食品を聞いて集めてくださることも多くなった。
- 個人からの寄贈は、物価高騰の影響や量販店店頭などでのフードドライブが普及したこともあり減少が続いているが、家庭の余剰品というより購入して寄贈して下さることが増えたと感じる。

③ 取扱食品の種類

- たんぱく源となる冷凍食品を大量に入手できたことから、たんぱく源の割合が増加した。
- 冷凍品以外のたんぱく源となる食品については必要量の入手が困難なことから、困窮子育て世帯支援事業用として購入した。
- 野菜については、コストコ分は減少したが、定期的に提供して下さる農家さんや、農業法人とのつながりができた。

- お菓子、飲料が多く集まる傾向があった。

食品区分	今年度重量 (トン)	前年度重量 (トン)	備考
米	43.6 (17.6%) 購入品、政府備蓄米含む	42.5 (17.2%)	白米・玄米・もち米 (アルファ米含まず)
パン	43.0 (17.4%)	46.2 (18.6%)	コストコ提供分
菓子	17.6 (7.1%)	13.0 (5.3%)	
飲料	21.9 (8.8%)	14.2 (5.7%)	ペットボトル・缶入り飲料
米飯・麺	18 (7.3%)	16.4 (6.6%)	麺類・パックご飯・アルファ米など
その他の食品	54.7 (22.1%)	59.3 (23.9%)	調味料・乾物・茶葉など
生鮮野菜・果物	31.2 (12.6%)	42.8 (17.3%)	コストコ提供分含む
タンパク質食品	17.5 (7.1%)	13.4 (5.4%)	主におかずになるもの
合計	247.5 (100.0%)	247.8 (100.0%)	

(2) 食品の活用

① 社会的弱者を支える非営利団体等への無償分配事業

- 158 の施設・団体および事業に対して毎月 1～3 回、または不定期に食品を提供した。今年度、新たに合意書を交わした団体は 12 団体（事業）となった。
- 主に長年にわたって支援している団体について、その団体の運営・活動状況を確認し、当法人からの食支援の役割を終えたと判断した 7 団体については年度末で当法人からの食品提供を終了した。
- 新規受取希望団体については、以前より支援対象を精査し、支援が必要と判断した場合には新たに合意書を交わして食品を提供している。
- 提供する食品の種類や量については、なるべくそれぞれの団体の活動内容、支援対象に応じて分配するよう努めている。
- 定期的な食品提供に加えて、在庫が多い食品を希望する団体に臨時で提供し、寄贈された食品を有効活用するよう努めた。
- 地域で困窮世帯に対して食品の無償配布を行うフードパントリー団体への食品提供が増加した。今年度新たに提供を開始した団体は 4 団体。
- フードパントリー団体に対しては、食品の最終受取者であるパントリー利用者による転売防止や適正活用、トレーサビリティを確保するためのガイドライン順守を求めている。

種別ごとの受取団体数 ()内は新規団体数

施設・団体・事業の種別	団体数	備考
子ども支援	20(3)	児童養護施設、ファミリーホームなど
母子支援	20(1)	母子生活支援施設、ひとり親支援団体など
作業所など	53(3)	障がい者就労支援施設、外国人支援団体など
子ども食堂	33	
パントリー	19(4)	困窮者に食品無償配布事業をする団体
ホームレス支援	11	ホームレスに炊き出しなどを行う団体
その他（ネットワーク等）	2（1）	兵庫こども食堂ネットワーク、神戸市社会福祉協議会
合計	158(12)	

他のフードバンク 5 団体

② 生活困窮世帯への支援事業（食のセーフティネット事業）

<行政、社会福祉協議会を通じて>

- 様々な理由で困窮し食糧不足に陥った世帯に対して、行政の福祉担当部署や社会福祉協議会の地域福祉生活相談担当部署からの支援要請を受けて、缶詰・レトルト・米などの食品約 1 週間分を、当法人がその担当部署を通じて困窮世帯に無償で提供する取り組み。2012 年から実施している。
- 今年度は事業協定を締結している自治体・社会福祉協議会・民間事業所のうち、尼崎市・芦屋市・西宮市・伊丹市・川西市・高砂市・猪名川町・神戸市（3 区）・三田市・加東市からの支援要請に対して食品を提供した。
- 各自治体での貸付制度の活用や、個人や企業から寄贈されて保管している食品の提供で間に合わせている場合も多いが、新たに食品配送費の予算をつけて積極的にこの仕組みを活用した社会福祉協議会では、当法人からの食支援は種類も多く、要支援者の気持ちを元気にし、積極的な生活再建につながる効果を実感したとの報告があった。

<個人からの直接依頼があった場合の対応>

- 本人から申し込みフォームや電話での食支援申し込みは、真偽がわからず、また一時的な食品提供より継続的な支援に繋がるのが適切と考え、まず地域の社会福祉協議会や福祉部署への相談を原則とした。
- 上記の原則を重視したため、昨年より支援件数は大きく減少した。
- 地域での支援に繋がることを願ってできるかぎり地域の支援団体の情報を伝えるようにした。

年度（4月～3月）	2022 年度	2023 年度	2024 年度
行政・社協を通じた件数	399 件 (591 人)	367 件 (535 人)	467 件 (664 人)
直接依頼の件数	266 件 (655 人)	318 件 (631 人)	104 件 (255 人)

③ 困窮子育て世帯への支援事業

<子ども元気ネットワーク事業>

- 困窮子育て世帯の生活相談や学習支援などを行っている母子生活支援施設・シェルター運営団体・子ども食堂などの民間の団体と連携して、当法人が食支援を担い、原則 1 年間、登録世帯に食品を毎月 1 回、宅配で直接届ける取り組み。2015 年以降継続して実施している。
- 今年度は、12 の連携団体を通じて登録のあった世帯に、延べ 785 回食品を宅配で送った。
- 兵庫県栄養士協会の提供による食材活用と食生活改善のレシピを入れて役立てられた。
- 米不足の際にも米の送付は欠かさなかったため、とても助かったという声が多かった。
- 物理的のみでなく精神的にも支えられていることの安心感や元気が得られるとの反応が多く寄せられ、この事業の意義を感じることができる。
- 一方で、連携団体との情報交換会を開催した中で、食品の受取が当たり前になると世帯の自立を妨げる懸念もあることを認識した。
- 連携団体でも食品配布事業を行っているところが多いこと、上記の「依存」を回避するため、来年度以降は年 4 回の送付とし、対象を小学生以上に変更することとした。

<子育て世帯応援食品パック事業>

- 給食がなくなる夏休みと年末に年度末の 3 月を加え、年 3 回、「兵庫県内在住、小学生以上の子どもがいる生活困窮子育て世帯」を対象に公募して、米やその他食品を詰め合わせた食品パックを一斉に宅配で発送した。
- 応募人数が 1000 件を超えることもあり、予定数より大幅に多い数の世帯に発送した。
- 募集にあたっては、地域の子育て世帯の情報を持っている行政の子育て支援窓口や社会福祉協議会、民間の支援団体などを通じて対象者に情報提供を依頼した。行政の部署からの情報提供は対象世帯に適切に情報が届き、それら世帯からの応募につながっている。
- この企画が定着してきたこともあり、リピーターが半数になってきたので、年末の際は初めて支援する世帯を優先し、新たな受益者を拡大した。
- 応募の際のアンケートから物価上昇の影響で家計が苦しくなり、食生活の質が低下している状況がわかった。
- 受取確認用返信ハガキに書かれたコメントから、米他の食材を得られ助かるとともに子どもが大喜びし、親も支えてくれる人がいると感じて気持ちが明るくなることがわかる。
- 食品を通じた社会貢献に企業を巻き込むきっかけになり、受益者に喜ばれていることがわかることでボランティアの活動のモチベーション向上にも繋がっている。
- 応募世帯の情報を元に新たな子育て世帯支援事業に繋げた。

夏休み子育て世帯応援食品パック（2024 年 7 月実施）

- 支援世帯数：602 世帯、2017 人
- 食品提供企業・団体数：43 団体と一般市民（総重量：約 8.4 トン）
- 提供内容：米・レトルト食品・缶詰・パックご飯・乾麺・インスタント味噌汁・お菓子など

子育て世帯応援食品パック 2024 冬（2024 年 12 月実施）

- 支援世帯数：629 世帯、1932 人

- 食品提供企業・団体数：47 団体と一般市民（総重量：約 8.1 トン）
- 提供内容：米・レトルトハンバーグ・乾麺・餅・パックご飯・インスタント味噌汁・クリスマスやキャラクターのお菓子など手作りのクリスマスカード

進級・進学応援食品パック（2025 年 3 月実施）

- 支援世帯数：414 世帯、1247 人
- 食品提供企業・団体数：政府備蓄米使用、8 企業・団体（総重量：約 4 トン）
- 提供内容：米・レトルトカレー・パックご飯・α米・チョコレート他菓子・コーヒー

(3) 関係各機関との連携

① 兵庫こども食堂ネットワーク

- 2017 年 2 月より、兵庫県内の子ども食堂のネットワークを作り、その事務局を担ってきた。対象地域を兵庫県全域に拡大したため、加盟団体が増加し 150 団体を超えた。
- 企業からネットワークへの寄付や物資提供が増えた。
- 井植文化賞 社会福祉部門を受賞した。
- ネットワークへの支援が増える一方で、子ども食堂運営団体が持続的にネットワークの運営を担う体制づくりは難しくなっている。
- 今後、各地域のネットワーク化を図り、そのゆるやかな繋がりとしての県のネットワークにしていくよう進める。

② 行政機関との連携

「ひょうごフードサポートネット」

- 県内の行政・福祉機関・企業・地域支援団体が連携して、食を活用した持続可能な困窮世帯への支援体制の構築を目指す取り組み
- ネットワークからの情報提供と食品提供を受けた。当法人の事業をネットワークを通じて発信した。

③ フードパントリー

<フードパントリー団体情報交換会>

- 2024 年 9 月 17 日、オンラインにて開催 12 団体（15 人）と当法人 3 人参加
- 各団体の近況報告とブレイクルームでグループトーク。支援の出口、食材の確保、家賃などについて意見交換と情報提供。

<第 7 回 フードセーフティネット・シンポジウム パネラー参加>

- 2024 年 9 月 27 日、15 時から 16 時 30 分 セカンドハーベスト・ジャパン主催
- テーマ：「サステナブルなフードバンク・フードパントリーを目指して」
「兵庫県内のフードサポートの状況」を報告

④ フードバンク間の連携

- 日本フードバンク連盟の開催する加盟団体同士の定期的なオンラインランチミーティングに参加し、政策の動向の共有や他団体の取組、連盟の今後の方向性などについて情報交換、意見交換をおこなった。
- 能登半島地震被災地支援について、日本フードバンク連盟の支援活動と今後の方向性について報告を受けた。連盟がニーズを聞き取った食品を被災地の団体へ宅配で送った。
- フードバンクはりまへ毎月食品を配送。不定期でフードバンクあこうに状況聞き取り、必要な食品を提供した。
- セカンドハーベスト・京都、ふーどばんく OSAKA、フードバンク奈良へも食品を不定期に提供し連携を強化した。

(4) 広報活動

① ホームページや SNS の活用

- 当法人の活動方針や事業について発信するホームページは、必要に応じて随時情報を更新した。
- 日々の活動をフェイスブックやInstagramに随時投稿して情報発信し、当法人の取組について発信した。

② イベントの開催や他団体主催のイベントへの参加

<当法人主催のイベント>

今年度は実施しなかった。

<他団体主催・当法人との共催のイベント>

- 2024年10月6日：コープこうべ主催「うみかぜ音楽祭 2024」出展
子どもたちを対象に「お菓子釣り」ゲームと「食品ロスクイズ」
大人向けに「食品ロスクイズ」を実施
- 2024年10月19～20日：兵庫県民農林漁業祭（県立明石公園）出展
子どもたちを対象に「お菓子釣り」ゲームと「食品ロスクイズ」
大人向けに「食品ロスクイズ」とチラシ配布により活動紹介を実施
- 2025年2月11日：「第7回 いのちとくらしの映画祭&講演会」開催
(新開地アートひろばホール)
コープ自然派兵庫・コープこうべ他と当法人が実行委員会を組んで、貧困などの社会問題を市民と一緒に考える機会として開催。映画「濁水」上映と島田妙子さんの講演、ならびに地域で活動する支援団体6団体のパネル展示による活動紹介を実施した。
約140名が参加
- 2025年3月22日：コープ自然派兵庫主催「自然派マルシェ 2025」出展
子どもたち対象の「お菓子釣り」ゲームの手伝い
大人向けに「食品ロスクイズ」実施

- ③ 年次報告書、ニュースレターの発行：年次報告書（年1回）、ニュースレター（年2回）
 - 2024年6月：年次報告書2023年度版（支援者に配布の他、活動紹介等で使用）
 - 2024年6月：フードバンク関西ニュース50号（支援者、受取団体等に発送）
 - 2025年2月：フードバンク関西ニュース51号（支援者、受取団体等に発送）

- ④ 講演活動・出前授業
 - 生涯学習授業・大学・短大、小学校などからの依頼を受けて、日本の食品事情、フードバンク活動やフードバンク関西についての紹介を、オンラインを含めて計8回実施。

- ⑤ 受賞
 - 神戸新聞社会賞受賞 5月28日授賞式

- ⑥ 報道機関などの取材と掲載
 - 2024年5月3日：神戸新聞 第78回神戸新聞賞受賞団体発表
 - 2024年5月29日：神戸新聞 第78回神戸新聞各賞授賞式
 - 2024年6月12日：神戸新聞 米不足と夏休み子育て世帯応援食品パックについて
 - 2024年6月28日：日本食糧新聞 カネス製麺の食品提供について
 - 2024年7月11日：NHK 神戸放送局 リブラブひょうごにて子育て世帯応援食品パックについて
 - 2024年12月23日：サンテレビ 子育て世帯応援食品パック発送取材

IV. フードバンク関西の運営費の調達

フードバンク事業では収益性がなく、当法人の活動運営費は、活動趣旨に賛同して下さる賛助会員の年会費、個人や団体からの寄付、そして助成金で賄っています。今年度は匿名個人からの高額寄付や企業からの寄付件数が増えたことにより収入は前年度より増加いたしました。

(1) 賛助会員、個人・企業からの支援

- 本年度は、賛助会員からの年会費、一般の皆様からの寄付が、個人・法人を合わせて776件となった。

(2) 助成金・補助金

- 神戸市環境局のフードバンク活動支援助成
- 赤い羽根共同募金

(3) 2024 年度の主な収入支出項目と金額（円）

<収入>

	個人	金額（円）	団体	金額（円）	合計金額（円）
正会員年会費	27 人	270,000	0	0	270,000
賛助会員年会費	214 人	3,704,000	138	3,159,000	6,863,000
一般寄付	388 人	16,062,513	36	7,579,649	23,642,162

助成金	神戸市・パブリックリソース財団・赤い羽根共同募金	1,165,510
資産受贈益	ACCJ 関西より法人車輛受贈の評価額	1,750,000
その他の収益	受取利息・配送分担金・雑収入	737,639

経常収入合計	34,428,311
--------	------------

<支出>

費目・摘要		金額（円）	費目・摘要		金額（円）
事業費	人件費	2,750,000	管理費	賃借料	720,000
	食品配送経費	4,185,288		支払い手数料	568,377
	交通費	1,993,820		水道光熱費他	57,214
	賃借料	3,344,115		その他	123,311
	食品購入費	1,992,732			
	その他	6,337,155			
事業費合計		20,603,110	管理費合計		1,468,902
経常支出合計					22,072,012

2024 年度経常収支差額	12,356,299
---------------	------------

V. フードバンク関西がかかえる課題

(1) 生活困窮者支援に必要な食品の継続的、安定的な確保

- 米、野菜・果物、たんぱく質食品など、生活困窮者の健康的な生活の維持につながる食品を十分に入手する必要がある。

(2) 当法人からの食品を活用した困窮者支援の取組みの拡充

- 兵庫県内で民間の支援団体や行政機関、社会福祉協議会など連携する団体を増やしていきたい。

(3) 物流に関する課題

- 兵庫県内に受益者を拡大するためには地域で拠点となる団体とそこへの配送を解決する必要がある。
- 企業が寄贈食品を配送することができなくなることへの対応を迫られる。
- 当法人においても、車を運転して食品配送を担うボランティアが高齢化している一方、若い世代の確保が難しい。

(4) 当法人において配送の担い手不足や寄贈食品の減少を踏まえて将来的な事業の見直しが必要

- 生活困窮者への食支援を中心として事業の見直しと運用の変更を検討していく必要がある。

VI. 今後の展望と方向性

食品関連企業での食品ロス削減推進の取組が進み、今後も食品寄贈の減少が予想されます。一方で食品アクセス困難者への円滑な食品アクセス確保に向けた政策が進められており、食品寄贈促進のため認証制度の導入などフードバンク団体に対しより適切な運営体制の構築が求められるようになります。

そのような中でフードバンク関西は、しっかりとした食品衛生管理体制やトレーサビリティの確保と生活困窮者への適正な提供に取り組むことを通じて、フードバンクとしての信頼性を高め、安心して食品を託していただけるよう努めます。

そして寄贈を受けた食品を支援が足りない兵庫県内の地域にも支援が届くよう受益者の拡大を目指します。事業、運用の見直しや効率化を進め、物流や拠点の課題を解決していきながら、食支援が有効に活用されて、地域の中で誰もが安心して生活できる社会の実現を目指していきます。そのために県内で生活困窮者の生活の向上を支援する民間団体や行政機関などよりいっそう協力関係を築いていきたいと思えます。

また、地域の諸団体、行政機関や近隣のフードバンク団体と共に体制を整えて、災害などの非常時における地域住民の食の確保についても取り組みを進めていきます。

引き続きご支援くださる方、新たにこのような活動をご支持くださる方が増えていくよう、活動の状況や成果などのわかりやすい発信に努めてまいります。

今後とも当法人の活動にお力添えくださいますようお願いいたします。

VII. フードバンク関西の概況

(1) 活動開始：2003年4月 法人設立：2004年1月26日

(2) 認定NPO法人の認定

- 国税庁からの認定：2007年11月19日 再認定：2009年10月19日
- 兵庫県からの認定：2013年12月27日
- 神戸市からの認定：2018年12月19日 再認定：2023年10月25日

(3) 主たる事務所：神戸市東灘区深江本町1丁目8-16-101

- 電話番号： 078-855-7025
- FAX 番号： 078-855-7028
- メールアドレス： info@foodbankkansai.org
- ホームページ： <https://foodbankkansai.org/>
- Facebook： <https://facebook.com/foodbankkansai/>
- Instagram： <https://www.instagram.com/foodbankkansai/>

(4) 役員

- 理事長 中島 眞紀
- 副理事長 上野 裕司 加賀城 俊正
- 理事 浅葉 めぐみ 松尾 粒一 丸山 優子 曾我 智史 小嶋 新
野田 充
- 監事 山岡 明子

(5) 正会員（敬称略・アイウエオ順）

浅葉 めぐみ	荒井 昌明	井坂 千代子	上野 裕司	加賀城 俊正
川崎 知浩	川口 純生	貴志 久美子	多木 正則	田原 将行
近本 博文	中井 龍司	永井 美加	中島 眞紀	西口 信幸
西村 秀明	野田 充	馬場 一徳	深堀 潤子	前川 舞子
松尾 粒一	松本 美佳子	丸山 優子	向 貴美子	山岡 明子
山地 昌子	山本 桂子			(以上 27 名)